

第1章 理念・目的

点検・評価項目	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 文学研究科の理念・目的は適切に設定されているか							
a	<p>◎大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。</p> <p>◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。</p> <p>【約500字】</p>	<p>文学研究科の理念については、「教育・研究に関する長期・中期計画書」において、「人類の歴史と精神文化の研究を通して、豊かで安定した社会の実現に寄与し貢献する」という創立以来の基本理念を堅持しつつ、「実証的でありつつ自由闊達で清新な研究を通して高度な専門知識を備えた研究者、教育者の養成と教養人の育成」のために、カリキュラム改革の不断の努力とPDCAサイクルに基づく組織的取り組みを進めている(資料1-6)。</p> <p>文学研究科は、「多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な普遍的な課題の解明に寄与すること」を目的としている。また、「豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化と科学的な時間・空間認識を会得した優れた人材育成」を教育目標とするよう、「人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的」として、大学院学則別表(資料1-7)に記載している。</p>					資料1-6 2014年度教育・研究に関する長期・中期計画書 文学研究科1頁 資料1-7 明治大学大学院学則別表4「人材養成その他教育研究上の目的」
b	<p>●当該大学、学部・研究科の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。</p> <p>【約100字】</p>	<p>文学研究科の権利自由、独立自治という建学の精神を基礎として「実証的でありつつ自由闊達で清新な研究を通して高度な専門知識を備えた研究者、教育者の養成と教養人の育成」を目的として、「一層高度な専門的知識と問題究明への手法を修得した、実践力を備えた研究者、教育者、教養人」の育成を目指しており、将来的な方向性も明らかにしている(資料1-8)。</p>					資料1-8 2014年度教育・研究に関する長期・中期計画書 大学院(文学研究科)32頁
(2) 文学研究科の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか							
a	<p>◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること</p> <p>【約150字】</p>	<p>これらの理念・目的は、大学院便覧(資料1-1)、シラバス(資料1-2)等で学生及び教職員に周知しており、また明治大学大学院ガイドブック(資料1-3)、ホームページ等で社会一般にも公表している。</p>					資料1-1 2013年度明治大学大学院便覧 84-86頁 資料1-2 2013年度明治大学大学院シラバス(文学研究科) 4-5頁 資料1-3 明治大学大学院2014 GUIDE BOOK 52-77頁
(3) 文学研究科の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか							
a	<p>●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。</p> <p>【約300字】</p>	<p>理念・目的の適切性の検証について、毎年度、「教育・研究に関する長期・中期計画書」の作成時に、社会情勢や学生の学修実態に即して見直しを行っている。「年度計画書」は、「理念・目的」の章を含め、各章ごとに「研究科執行部」が担当して原案を作成し、執行部(案)を「研究科委員会」で審議承認する手続きとなっている。</p> <p>2012年度については、5月21日の研究科委員会において、理念・目的を検証した「長期・中期計画書」及び「年度計画書」を承認した。(資料1-5)。</p>		「年度計画書」でも理念・目的を明記しており、研究科委員会でも確認しているが、委員会内では検証を行う時間を十分に確保出来ていない。		執行部(2名)に加え、各専攻・専修から構成される「将来構想検討委員会」を立上げ、定期的に理念・目的を含めたカリキュラムの検証を行うことも一案である。	資料1-5 2012年度第2回文学研究科委員会議事録

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。							
(1) 文学研究科として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか							
a	●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	本研究科が定める教員像は、大学が毎年度定める「学長方針」や「教員任用の基本計画」に示された教員像に基づき、「教育に関する長中期計画書・年度計画書」における「教員・教員組織」において方針及び方策を毎年度検討し、研究科委員会で承認することで共有している（資料3-6、資料3-7）。 教員組織の編制方針は、「2014年度 教育に関する長中期計画書・年度計画書」における「教員・教員組織」において①文学部との一層の連携を図りながら大学院担当教員数を増やす、②優秀な人材を確保するために兼任教員の採用を増やす、③本研究科人事による客員教員（特任教員を含む）を採用するなどして継続的且つ積極的に取り組むことと定めている。		採用人事は学部が主体であるので、「年度計画書」における「教員・教員組織」は具体的な内容とは言えず、かつ十分に研究科の方針として文学研究科の教員に意識されているとは言えない。		「年度計画書」における「教員・教員組織」を、研究科の方針として位置付けるようにする。具体的には、「学長方針」にある教員編制方針に従って、専任教員によって研究科委員会が組織され、執行部会を中心として、必要に応じて専攻専修責任者会議及び拡大奨学金委員会等が編成される。	資料3-6 2013年度第2回文学研究科委員会議事録 資料3-7 2014年度教育・研究に関する長期・中期計画書 文学研究科(2頁)
b	◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	文学研究科内規（資料3-1）には教員任用・昇進の基準を定めるとともに、教員採用時の公募要領には本学部の教員資格条件（原則として博士号を保有していること）を明示している（資料3-8）。 具体的には、「文学研究科教員任用基準」において、博士前期・修士課程における専攻・専修科目、研究指導担当者の任用は、（1）本学の専任教員で博士の学位を有する者、（2）本学の専任教員で専門分野に関する著書（単著）、もしくは3編以上の学術論文を有する者。但し、論文は専門分野の出版物に掲載された論文を1編以上有すること、（3）文学研究科委員会が（2）と同等以上であると認めた者と明記している。また、博士後期課程における研究指導担当者の任用は、博士前期課程の研究指導担当者として原則として2年以上の経験を有し、次の各号のいずれかに該当するものと定めている。（1）本学の専任教授、専任准教授で博士の学位を有する者、（2）本学の専任教授、専任准教授で専門分野に関する著書（単著）、もしくは5編以上の学術論文を有する者。但し、論文は専門分野の出版物に掲載された論文を2編以上有すること、（3）文学研究科委員会が（2）と同等以上であると認めた者。					資料3-1 文学研究科教員任用基準（申合せ） 資料3-8 文学部史学地理学科アジア史専攻専任教員公募(2013年6月公開)
c	◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	研究科長及び大学院委員が主体となり、研究科委員会を毎月定期的に開催している。また15名の専攻主任及び専修責任者から構成される専攻主任・専修責任者会議や4名の委員から成る拡大奨学金委員会を不定期ながらも開催し、各種課題の解決に取り組んでいる。 指導体制については、専攻によっては合同演習の形態による複数指導がなされているが、指導教授は特定されており、教育研究指導の責任所在は明らかになっている。		心理臨床センターや日本古代学教育研究センターなどでコースワークやリサーチワークをすすめる、教育研究に活用されている。当該専攻専修会議において、その課題を協議し、その連携について協議している。			資料3-12 2013年度文学研究科各種委員会委員

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>						
<p>(2) 文学研究科の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか</p>						
<p>教員の編成方針に沿った教員組織の整備</p>						
a	<p>◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令(大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること(設置基準第7条第3項) 【約400字】</p>	<p>日本文学専攻は博士前期課程では9名、博士後期課程では8名の専任教員を擁し、大学院設置基準上の必要教員数5名以上を満たしている。英文学専攻は博士前期課程では11名、博士後期課程では9名の専任教員を擁し、大学院設置基準上の必要教員数5名以上を満たしている。仏文学専攻は博士前期課程・博士後期課程ともに7名の専任教員を擁し、大学院設置基準上の必要教員数5名以上を満たしている。独文学専攻は博士前期課程・博士後期課程ともに5名の専任教員を擁し、大学院設置基準上の必要教員数5名以上を満たしている。演劇学専攻は博士前期課程では5名、博士後期課程では4名の専任教員を擁しているが、大学院設置基準上の必要教員数5名以上を満たしていない。史学専攻は博士前期課程では21名、博士後期課程では17名の専任教員を擁し、大学院設置基準上の必要教員数7名以上を満たしている。地理学専攻は博士前期課程では7名、博士後期課程では5名の専任教員を擁しているが、大学院設置基準上の必要教員数7名以上を満たしていない。臨床人間学専攻では博士前期課程は18名、博士後期課程は10名を擁し、大学院設置基準上の必要教員数5名以上を満たしている。このように一時的ではあるが、一部の専攻では専攻設置基準を充足するに至っておらず、特に博士後期課程において、演劇学専攻では1名、地理学専攻では2名の専任教員が不足している。一方、他の専攻は基準を上回っており、専攻間のアンバランスが生じている。文学研究科担当教員の年齢構成は、約7割が50代以上で占められているが、2012年度は30代の教員を1名、40代の教員を2名任用し、研究科としての若年化は進んでいる。</p>		<p>2013年度中に博士後期課程において演劇学専攻1名及び地理学専攻2名が、設置基準上の定員を満たしていない。</p>	<p>2013年度中に博士後期課程において演劇学専攻1名及び地理学専攻2名の任用(新規授業担当人事)を行う予定である。</p>	
b	<p>◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】</p>	<p>専兼比率は約84%を占め、専任教員の担当比率は高く推移している。一方、特に臨床心理学専攻では、現役の精神科医、臨床心理士など資格を有しかつ実務経験の豊富な実務家を講師として任用している。また2013年度は、高麗大学から2名の教員を客員教授として迎え、総合文学研究、総合史学研究、或いは文化継承学等を担当している。この他にも3名の特任教員が文学研究科の授業を担当し、学際的な内容の指導を行っている。</p>				
<p>教員組織を検証する仕組みの整備</p>						
c	<p>●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】</p>	<p>研究科の執行部として、毎年度「教育研究年度計画書」において教員・教育組織に関する長中期計画を策定している。「年度計画書」の策定にあたっては、自己点検・評価結果などを参考としながら教員・教員組織を検証し、その編制方針の見直しを行い、研究科委員会で承認を得ている。(資料3-6)この研究科委員会とは、文学研究科の授業を担当している専任の教員で組織された文学研究科において最高決定機関である。</p>				<p>資料3-6 2013年度第2回文学研究科委員会議事録</p>

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。							
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか							
a	<p>●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】</p>	<p>大学院担当の専任教員の募集・昇格はすべて学部教授会で決定されるが、大学院のみ担当の特任教員と兼任講師の採用に関しては大学院で決定できるようになった(資料3-2, 資料3-3)。 本研究科担当教員の資格は、「文学研究科教員任用基準(申合せ)」に基づき、特に博士後期課程においては原則として准教授以上とし、そのための審査手続は研究科委員会を経て、大学院委員会において承認され、適切性・透明性を担保されている(資料3-1)。</p>		<p>専任教員の採用と昇格が学部教授会で決定されるため、大学院での教育内容が、学部の人事に左右される面は否定できない。学部執行部と研究科執行部、学部教授会と研究科委員会との密接な連絡調整が求められる。</p>		<p>現行の組織のあり方に問題はないが、学生の多様な領域にまたがる研究ニーズに十分に対応するためにも学部と連携しながら大学院担当教員数を増やすとともに、外部からの優秀な人材を導入するため兼任教員を採用する。</p>	<p>資料3-2 文学研究科委員会において審議する教員任用人事の取扱内規 資料3-3 文学研究科人事審査委員会内規 資料3-1 文学研究科教員任用基準(申合せ)</p>
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか							
教員の教育研究活動等の評価の実施							
a	<p>●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】</p>	<p>教育・研究活動の活性化に資する業績評価については、教員の研究・教育活動は大学全体でデータベース化されており、インターネットを通じて閲覧することができる。(資料3-10) 専任教員の採用と昇格、兼任教員の採用の際に、当該教員の履歴と業績の開示を行い、公開している。各教員はその業績を閲覧の上、審査の可否の判断を行っている。</p>				<p>資料3-9 文学研究論集37号, 38号 資料3-10 明治大学専任教員データベース (http://rwd2.mind.meiji.ac.jp/scripts/websearch/)</p>	
教員の資質向上のための研修・諸活動(FD)の実施状況とその有効性							
b	<p>●教育研究、その他の諸活動(※)に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 (※)社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取り組みについては、「基準4」(3)教育方法で評価します。 【600~800字】</p>	<p>大学院全体のFDの研修について、本研究科から2013年4月13日の「大学院教育懇談会」に6名が参加した。なお、本懇談会では、大学院生に対する研究指導の在り方などの大学院特有の教育上の課題について、専任・兼任教員問わず大学院授業担当者が共有した(資料3-11)。 この「大学院教育懇談会」は専任・兼任教員問わず大学院授業担当者が、大学院学生指導における問題意識の共有化(メンタル面)を図ることを目的として開催されるものである。学生相談室の視点から講師を招き、講演・質疑応答を交え、情報を交換し、大学院の教育理念・人材育成の目的等を再確認し、大学院発展の動機付けの場とするためのものである。</p>		<p>大学院全体のFD研修を有効に活用するとともに、研究科独自のFDを充実させる必要がある。また院生協議会の代表と、教育・研究環境の向上について、協議の機会を設ける必要がある。</p>		<p>大学院全体のFD研修の成果を確実に共有することを工夫すると同時に、研究科のFD委員会の研修を企画する。また院生協議会の代表と文研執行部との間で、教育・研究環境の向上を目指す協議会を開催する。</p>	<p>資料3-11 2013年度大学院教育懇談会次第</p>

第4章 教育内容・方法・成果 (1)教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか ※全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。</p>							
a	<p>◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】</p>	<p>【博士前期・修士課程】 大学院学則別表4では、「人材養成その他教育研究上の目的」について、「多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与すること」を目的と掲げている。この目的を実現すべく、学位授与方針として、「多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することが出来る人材」の輩出を目指している。そのために、「学位取得のためのガイドライン」にある「学位論文に求められる要件」に基づき適切に論文指導をして学位(文学、史学、地理学または人間学)を授与しており、教育目標と学位授与方針は正剛している。(資料1-7, 資料4-1-5)</p> <p>【博士後期課程】 博士の学位を取得するに足る者の要件は、「当該分野での研究の国際的水準に達し、かつ研究者として今後自立して活動でき、そのための知識、語学力、思考力、意志力を備えた資質や能力」や「後進の研究者たちや学習意欲に燃える人々と向き合ってみずからの研究成果を伝える資質や指導力」を備えていることである。この要件を満たした学生に対し、「学位取得のためのガイドライン」にある「学位論文に求められる要件」に基づき適切に論文指導をして学位(文学、史学、地理学または人間学)を授与しており、教育目標と学位授与方針は整合している。(資料1-7, 資料4-1-6)</p>					<p>資料1-7 大学院学則別表4「人材養成その他教育研究上の目的」 資料4-1-5 修士学位取得のためのガイドライン 資料4-1-6 博士学位取得のためのガイドライン</p>
<p>(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか ※全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。</p>							
a	<p>◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】</p>	<p>学位授与方針に示した修得すべき成果を達成するため、教育課程の編成理念、教育課程の編成方針を明らかにした「教育課程の編成・実施の方針」を研究科委員会において定めている。(資料4-1-8)</p> <p>【博士前期・修士課程】 「現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する能力を実現する」という目的を達成するために、第一に各専攻・専修での学部過程での学習、実習成果を更に発展させつつより深い学識を身につけさせることで、先端的な専門知識への道を開き示すと共に、他方、苦手な分野では基礎的な学習と作業へと立ち戻らせ、また、「総合文学研究」、「総合史学研究」、「特別講義」、学術講演会などを通じて専門外の多様な知識にも広く触れさせる。そのために客員教授、特任教授等の制度も活用する。第二に、各専攻によっては早期の長期留学を奨励して、そのための実践的語学演習を提供している。これらの方針を踏まえ、研究指導においても、修士学位論文の執筆についてはきめ細かな指導を行ない、中間発表などで口頭発表、論文作成の基礎習得を重視した指導体制を構築している。</p> <p>【博士後期課程】 「専門的に研究に携わる研究者として豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得すること」を目指し、各専門分野において、自己の研究を客観的に位置づけ、その意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、それについて内外の研究者たちと闊達に議論でき、また、国際シンポジウムなど、研究の国際的協力体制を築くことができる能力を、専攻横断的かつ受講者参加型の「文化継承学」などを通じて養成する。また、学内・学外のG P、大型共同研究にも積極的に参加して経験を積み、高度な学問的研鑽の社会的責務を宿した知的倫理性を養成している。これらの方針を踏まえ、研究指導においても、指導教員を中心としながら、当該分野での最も困難な問題、それを解明するための最も高度な知識、最も先端的な方法を提示した指導体制が構築している。(資料4-1-7)</p>					<p>資料4-1-7 文学研究科の教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)</p>
b	<p>●学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関しているか。 【約200字】</p>	<p>学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の連関については、学位授与方針で定めた目的を実現するために、教育課程の編成・実施方針において、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する能力を実現するため、その研究意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、また専攻横断的な学問的研鑽を宿した知的倫理性を備えるカリキュラムを構成している。したがって、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の連関は適切である。</p>					

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画			
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	Alt+Enterで箇条書きに	
(3) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員及び学生等）に周知され、社会に公表されているか								
a	◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対しては、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について、大学院便覧やシラバスに明示されており（資料4-1-2、資料4-1-3）、またホームページ上でも公表されている（資料4-1-8）。						資料4-1-2 2013年度大学院便覧 87-88頁 資料4-1-3 2013年度文学研究科シラバス 6-7頁 資料4-1-8 文学研究科ホームページ「文学研究科学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」 (http://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_dp.html)
(4) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか								
a	●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	教育課程編成・実施方針及び学位授与方針は、大学院入試募集要項公開前に研究科委員会にて承認を得よう運用しており、2012年度は6月18日の研究科委員会にて、内容の承認を行った（資料4-1-4）。また、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の検証は、毎年の自己点検・評価報告書や「年度計画書」の作成時に確認を行っている。	学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の検証は、自己点検・評価報告書や「年度計画書」の作成・検討のプロセスにおいて検証されているが、カリキュラム改革やその他の改革において体系的に検証する仕組みには至っていない。		自己点検・評価のプロセスについて、研究科内で検証できる仕組みを構築する。専攻・専修の見直し、カリキュラム、入試制度等、執行部及び専攻主任を交えた検討委員会を発足させ、で具体的な審議を継続的に行う。	学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の検証について、より自覚的に、体系的に行うシステムを確立する。	資料4-1-4 2012年度第3回文学研究科委員会議事録	

第4章 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください					Alt+Enterで箇条書きに	
(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか							
必要な授業科目の開設状況							
a	◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	<p>【博士前期課程】 本研究科は、日本文学、英文学、仏文学、独文学、演劇学、文芸メディア、史学（日本史学、アジア史、西洋史学、考古学の4専修）、地理学、臨床人間学（臨床心理学、臨床社会学の2専修）から構成されている。いずれの専攻・専修においても、「多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与すること」を目的とし、各専攻・専修とも「現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する能力を実現する」というCPに基づき、授業科目を設置している。日本文学専攻は「古代文学」「中世文学」「近世文学」「近代文学」「国語学」「漢文学」、英文学専攻は「英文学」「米文学」「英語学」、仏文学専攻は「近代仏文学」「現代仏文学」「仏語学」、独文学専攻は「近世独文学」「近代独文学」「現代独文学」「ドイツ文芸思想史」「独語学」、演劇学専攻は「演劇学」「日本演劇」「西洋劇文学史」、文芸メディア専攻は「日本文芸史」「表象文化特論」「表現創作特論」、史学専攻は「日本史学」「アジア史学」「西洋史学」「考古学」、地理学専攻は「自然地理学」「人文地理学」、臨床人間学は「臨床心理学」「臨床社会学」「臨床教育学」などに科目が分類され、いずれの専攻も体系的にカリキュラムを編成している（資料4-2-1、資料4-2-2、資料4-2-3）。</p> <p>また、複眼的な研究視点を育成するため設立され、複数教員による専攻専修横断型の講義科目「総合文学研究」「総合史学研究」や「文化継承学」などの発表型授業を設置し、研究科の各専攻専修の学生がお互いの研究分野や方法論を認識することで、さらに専門性を培っていく場として機能している。</p> <p>この他にも臨床人間学専攻臨床心理学専修は、日本臨床心理士資格認定協会より臨床心理士指定大学院として承認されており、カリキュラムについても同協会より認可を得ている。（資料4-2-4）</p> <p>【博士後期課程】 「専門的に研究に携わる研究者として豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得すること」を目指し、各専門分野において、自己の研究を客観的に位置づけ、その意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、それについて内外の研究者たちと関連に議論でき、また、国際シンポジウムなど、研究の国際的協力体制を築くことができる能力を、専攻横断的にかつ受講者参加型の「文化継承学」などを通じて養成する。また、学内・学外のGP、大型共同研究にも積極的に参加して経験を積み、高度な学問的研鑽の社会的責務を宿した知的倫理性を養成している。これらの方針を踏まえ、研究指導においても、指導教員を中心としなが</p>				海外との学術交流を拡充し、学生の留学のチャンスを拡大するために外国語での論文執筆を視野に入れた授業を設けているが、今後留学に必要な検定や外国語での発表も視野に教育課程の整備を行う。一部で行っている英語のみの授業について、その履修率をさらに高め、また学会等で発表するための能力、プレゼンの仕方を学ぶ。	資料4-2-1 2013年度明治大学大学院便覧 87-110頁 資料4-2-2 2013年度明治大学大学院シラバス文学研究科 33-53頁 資料4-2-3 2013年度明治大学大学院シラバス文学研究科 305-309頁 資料4-2-6 大学院研究科専攻（コース・領域）指定継続承認について（通知）（財団法人日本臨床心理士資格認定協会）
b	◎コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていること。【修士・博士】 【200～400字程度】	<p>【博士前期・修士課程】 32～38単位を修得することが義務付けられ、コースワークの「講義科目」「演習科目」を並立させ科目を設置している。特に地理学・臨床人間学専攻では、講義・演習科目に加え、「地理学フィールドワーク」や「臨床心理実習」「臨床心理査定演習」「臨床心理基礎実習」等の実習科目を設置し、コースワークとリサーチコースのバランスが取れている。</p> <p>【博士後期課程】 研究論文指導及び特別演習より各12単位、合計24単位の修得が義務付けられている。さらに積極的に前期課程の授業・コースワークに博士後期課程の学生が中心となって参加し、学生相互で刺激し合う場となっている。その成果を年度ごとに論文としてまとめる指導も行っている。たとえば、「文化継承学」の科目については、発表、技能、討論を重ねつつ、研究視野の拡大に努めている。</p>					
順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、履修モデル、適切な科目区分など）							
c	●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次性・体系的な履修への配慮） 【約400字】	CPに基づいて、シラバス上で授業科目の配当年次を示しており、新入生には4月の入学ガイダンス時に時間を取り、履修条件を周知している。また13年度からのカリキュラム改正に向けて、臨床人間学専攻臨床社会学専修の演習科目を「臨床社会学演習」と「臨床教育学演習」に二分。当該専修の院生のニーズに見合う形でカリキュラムを改善した。					

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。							
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性							
d	●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	文学研究科の教育課程の編成方針に基づき、必要に応じ、執行部と専攻専修責任者の協働で、カリキュラムの検討及び見直しを行っていることとしている。特に休講科目が多数存在していた「総合文学研究」では、執行部主導の下、カリキュラム及び授業担当者の見直しを行い、開校科目の増加に繋げた(資料4-2-8)。この他にも現在、「文化継承学」や「総合史学研究」等のカリキュラム上での運用について、現在執行部にて検討を進めている。					資料4-2-8 文学研究科「総合文学研究」担当者一覧
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか							
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容(何を教えているのか)							
a	●何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【1200字程度】	【博士前期・修士課程】 日本文学専攻は、各時代別の文学及び時代を限定しない国語学を研究するための科目を中心とし、さらに日本文学史・日本文学特殊講義・漢文学など関係領域科目を設置している。英文学専攻は、文学では、1500年代から現代に至るまでの演劇、小説、批評を中心としたイギリス文学、アメリカルネサンス期から、現代に至るまでの小説や詩の他、多岐にわたるジャンルのアメリカ文学、ならびに身体論、ジェンダー論、文化論などの理論を、英語学では、統語論、形態論、語用論、認知言語学、意味論、音声学・音韻論、文体論、語彙論、辞書学、日英対照言語学などを研究している。仏文学専攻は、フランス文学、文法論的研究をはじめ、ルネサンス、近代の散文の分析、近・現代の詩の解説を対象とし、フーベール、ブルスト等も研究している。独文学専攻は、近現代文学を研究対象とし、思想、芸術、政治等の関わりで文学現象を考察できる視点をもつよう指導。語学能力向上のための徹底した訓練も実施している。演劇学専攻は、日本演劇と西洋演劇について広い視野を持って歴史的、論理的に研究する基礎を築きつつ、専門領域における探求を深めるよう指導している。文芸メディア専攻は、思想から風俗に至る文化的諸状況、特にメディア状況と文芸家との関係を総合的に考究する。具体的にはメディアと大衆文化、都市・都市文化と文学、源氏物語をはじめとする古典文芸の受容、仏教思想・国学思想と文芸、近世文学と近世メディア、出版史・出版研究、文芸思潮研究、創作特論、翻訳研究、表象文化論などを教えている。史学専攻は社会的存在としての人間が営々と培ってきた諸国の歴史と、その結果もたらされたものの分析、さらには各時代の特質などを、研究対象に設置し、日本史学専攻は、古代から現代史までの幅広い領域を対象。アジア史専攻は、アジア全域の全時代を対象。西洋史学専攻は、西欧や国際関係史など幅広い領域での研究を展開。考古学専攻は、東アジアでの日本の位置づけについても研究。地理学専攻は、地形・気候・環境などの自然地理分野、経済・社会・文化などの人文地理学分野、国内外を対象とした地域研究等を実施。臨床人間学専攻は、「社会、歴史、政治の文脈を見失わない臨床心理学専攻」と「心、身体、倫理への視座を手放さない臨床社会学専攻」による実践学の発展を目指す。 【博士後期課程】 各専攻とも、研究論文指導及び特別演習より計24単位の取得を必修とし、各自の研究主題に応じ、指導教員による研究指導の下、博士論文をまとめる。		特別講義について、現在合計8件実施しているが、これを全専攻・専修(計13件)で実施出来るような運用を図りたい。	特別講義を全専攻・専修での実施できるように、講義の充実を図るとともに、それを継続して取り組むための運用を考慮する必要がある。		全専攻・専修で実施を強く希望するが、一部の専攻・専修での実施となっている。更なる講義実施の充実を図る。

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください					Alt+Enterで箇条書きに	
特色ある教育プログラムの内容とその効果(当該研究科等固有のプログラムやGP採択事業など)							
b	<p>●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。【200字～400字程度】</p> <p>文学研究科では、「文化継承学Ⅰ」という専攻・専修横断的な博士後期課程の講義科目を核として4年前に文科省G P「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム」(吉村教授)が採択された。「文化継承学Ⅰ」は、日本・アジア・西洋の古代と中世における歴史や文学、考古資料を対象とした科目で、「地域」や「時代」、「資料の種別」を総合化して人類の営みの総体を文化として捉える試みであり、学生の専門領域を大切にしながらも、幅広く「人文科学の視点」で新たな学問を探究する姿勢を養成するものである。この取り組みは、「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム」(平成20年度大学院教育改革支援プログラム)の一環でもあり、ここでの教育活動は、「明治大学日本古代学教育センター」「明治大学古代学研究所」における研究成果と両輪をなしている。本G Pプログラムでは、「院生を交えた研究会」、「シンポジウムの開催」、「フィールドワークの実施」、「冊子の発刊」など精力的に活動した(資料4-2-5)。</p> <p>この他にも、高麗大学、北京師範大学を初めとする韓国、中国などアジア諸国の大学との交流も次第に充実しており、2012年度の「総合地域研究」では、海外フィールド実習形式で海外大学生と交流する「高麗大学校プログラム」、「慶北大学校プログラム」、「中国科学院プログラム」などを実施し、本学より合計24名の教員/学生が参加した。</p>	文化継承学論集を毎年度末刊行し、論文ないし発表内容の概要を掲載を促している。	文化継承学は、開講科目がⅠ(古代)・Ⅱ(近代)・Ⅲ(現代)に分かれているが、Ⅲは過去5年間未開講が続いている。	海外との大学院国際交流の場において、相互に研究成果の発表を示している。例えば、文学研究科設置科目「文化継承学Ⅱ」での多年に亘る研究蓄積の海外発信を、欧州全体の国際交流拠点校・ストラスブル大学(近く全額協定締結)との共催により、CEEJAの全面協力を得て行われる。その成果は、論集として、刊行し、日本及び欧州全土の研究教育諸機関に配付される。	文化継承学について、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの関連性を再度整理した上でカリキュラム改正を行う。文化継承学は開講以来10年の歴史を持ち、新たな発展を模索しなければならない。	資料4-2-5 明治大学・中国社会科学院第2次学術研究会報告集(2012年7月26日・27日開催)	
研究科間等における国際的な教育交流の内容とその効果(研究科間協定、短期海外交流など)							
c	<p>●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。【200字～400字程度】</p> <p>2012年7月には中国社会科学院との学術交流会を実施。また、2012年9月に高麗大学との国際学術会議を実施した。また、2012年11月にストラスブル大学と合同で、森鷗外生誕150周年を記念する国際シンポジウムを開催し、白熱した議論を繰り広げた。(資料4-2-4)なお、同シンポジウム終了後に記念論集を刊行し、学術交流の成果の周知を行った(資料4-2-5)。</p> <p>また、学内での交流については、他大学からの単位互換による履修者が9名おり、文学研究科の講義・演習科目を受講した。</p>	同シンポジウムを契機として、2013年度では本学の「大学院学内GPプログラム」の「他大学大学院との研究交流プログラム」に採択が決まり、継続して学術交流を行うことが決まった(資料4-2-7)。	他大学の大学院生を本研究科の授業に受け入れることは、授業の活性化のみならず、当該院生所属の大学院との学術交流が活性化される等、具体的な効果が出ている。	例えば、ストラスブル大学と全学協定を締結後、文学研究科として同大学を欧州での学術交流の拠点として、発展的な交流を続ける。この他にも、国際学術交流活動の活性化に向け、学内GP等の企画に研究科を挙げて取り組んでいる(資料4-2-7)。			資料4-2-4 2012年度政策経費「アルザス国際日本研究センター「日本文化について」国際シンポジウム」報告書 資料4-2-5 国際シンポジウム報告論集 多面体としての「森鷗外」-生誕150周年に寄せて- 資料4-2-7 2013年度大学院学内GP採択一覧

第4章 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(1) 教育方法及び学習方法は適切か</p>							
<p>教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性</p>							
a	<p>◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること【約800字】</p>	<p>本研究科の授業は、大学院学則22条2項のとおり、講義、演習、実習などいずれかにより行っており、各専攻・専修での学習成果をさらに発展させつつ深い学識を身につけさせている。また、専攻専修横断型科目である「総合文学研究」、「総合史学研究」、「文化継承学」等を通じて、自らの専門外の多様な知識にも広く触れさせている。特に2013年度の共通特修科目である「総合地域研究ⅡA」「総合地域研究ⅡB」では、韓国の高麗大学校や慶北大学校との共同授業と韓国国内でのフィールド調査を実施し、学問分野横断的・学際的視野をそなえた「複眼性」・「国際性」の育成を目指している。</p> <p>また、臨床人間学専攻臨床心理学専修の実習科目「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」では、学内外の病院や教育機関の実習を通して、臨床活動の実際を体験的に学習することを目的としている。なお同専攻では、研修相談員として専門相談員の初回面接の陪席、専門相談員の指導を受けながら実際の面接及び心理検査の担当を行っている。2012年度は初回面接の陪席を62回、面接や心理検査の担当を827回行い、センター全体の面接回数が増加に従って大学院生の担当できる回数も増加し、臨床心理の実習の場として教育に貢献している。このように実践的な教育を行った結果、院生が修了後に受験する臨床心理士資格試験に於いて、2012年度は受験者全員が合格し(全国合格率59%)、これまでに修了生全員が資格を取得している。さらに、修了生の臨床心理士によって組織された「明治大学臨床心理士会」との交流を密に行うことにより、臨床現場で活躍する修了生の知見おセンターの相談活動や教育活動に還元したり、現役院生との交流を図っている。</p> <p>また地理学専攻では専任教員全員による「地理学フィールドワーク」という実習科目を設置しており、講義及び演習科目とのバランスを取ったカリキュラムを設定している。これらの内容は、シラバスでも示している。(資料4-2-2)</p>	<p>「心理臨床センター」を活用した「臨床心理実習」は実施回数も増加し、大学院学生の臨床心理士資格試験に於いて、2012年度は受験者全員(100%)が合格し全国合格率59%、2006年の第一期生からこれまでに修了生全員(52名)が資格を取得していることから、優れた教育方法として効果が上がっている。</p>		<p>院生が十分な研修を行うためには、これまで年間2700回の面接を目標としてきたが、相談内容の重篤度などから院生担当の許可が得られる割合が30%程度にとどまっているため、2700回を超えても院生の臨床実習のための相談を行っている。そして、場所が実技と演習で別になっているため、即座にその2つが行うことができるよう、院生研修室を確保するよう努める。</p>	<p>社会人や留学生など学生の多様化に伴い、外国語での講義を行うために、ユビキタス教育を活用して撮影機器などの高度化を意識し、新しい授業形態を模索する。</p>	<p>資料4-2-2 2013年度大学院シラバス 文学研究科 33-53頁</p>
b	<p>●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。【約400字】</p>	<p>2004年度から導入した専攻横断的な研究をする博士後期課程科目の文化継承学は9年目となり、大学院学生・教員の学際的交流は確実に深まっている。『文化継承学論集』も第9号が刊行された。</p> <p>また臨床人間学専攻臨床心理学専修において、本学の「心理臨床センター」には、心理相談・治療を行うために、3面接室、2プレイルームがある。これらの部屋は、心理相談・治療を行うに相応しい環境が整備され、大学院生への臨床実習記録を作成指導やカンファレンス指導を行っている。この他にも地理学専攻では「地理学合同演習」において地理学実習室内の距離計等の機器を活用した測量技法に関する指導を行っている。</p>					
<p>学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫</p>							
	<p>●履修指導(ガイダンス等)や学習指導(オフィスアワーなど)の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。【約200字～400字】</p>	<p>博士前期(修士)・博士後期学生ともに、入学年次の4月に「履修計画書」の提出を義務づけており、各自の研究計画を踏まえた履修計画について、指導教員からの承認を得た上で提出を要請している。加えて、新入生には自らの研究業績を可視化できるよう、「大学院生研究業績調査書」を配布し、提出を求めている。</p>					

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>(修士・博士課程)研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導</p>							
c	<p>◎研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること(修士・博士)。 【400字】</p>	<p>【博士前期・修士課程】 指導教員による個別の研究指導や演習・特論を通じての全体的指導とともに、専攻・専修を横断した講義も行い、研究テーマに関連する幅広い知識を得させる。 専攻・専修によっては、研究内容の充実のみならず、広い視野の獲得のために、複数指導体制をとる場合もある。 1年次 各自の研究領域および関係領域における文献・資料などの検討と授業への参加を通じて、具体的な研究テーマの明確化と修士論文の構想の確定に努める。また、学会発表や学術誌への投稿も積極的に行う。 2年次 中間発表等を通じて、指導教員による個別の指導の下で研究を進め、指導教員以外からも助言を受けつつ修士論文を完成させる。 【博士後期課程】 指導教員が個々に緊密な連絡をとって学生の博士論文完成にいたるまで指導を行うが、専攻・専修によってはこれに加えて所属教員全体による指導体制をとる。 研究業績の要件と同様に詳細は専攻・専修の内規や慣行に基づくが、原則として以下のプロセスを経なければならない。 1年次 修士論文を補完させ、学内外の学術誌への投稿を促し、博士論文提出までの3ヵ年の研究スケジュールを明確化させる指導を行う。また、学位請求論文に不可欠な国内外の先行研究動向の把握、少なくとも国内における研究動向と展望の把握を行なわせ、これについての小論文を執筆させる。 2年次 1年次に続き諸外国における研究動向を概観しつつ、本格的な資料収集と分析を促進させる。明らかにされた成果を学会口頭発表や学会学術誌への投稿という形で公表させる。年度末には博士論文提出有資格の可否を認定する。 3年次 前期に博士学位請求論文中間報告を行い、予備審査を行う。予備審査で指摘された事項を補完して、指導教授の推薦を受け、専攻・専修会議は研究科委員会への学位請求の可否を判断する。研究科委員会の受理を受けて、最終審査となる公開発表を行う。</p>		<p>2012年度は博士後期課程の在籍者数78名のうち10名しか博士論文の提出に漕ぎ着けず、早期修了に向けた指導体制の強化を研究科として行う必要がある。また、博士号取得に向けてのプロセス(要件)が各専攻で異なり、研究科として統一出来ていない。</p>		<p>博士後期課程の指導体制(複数指導体制)及びカリキュラムについて、中期的な検討を行う。 また、博士号取得に向けたプロセス(要件)は、研究科としてのルールを策定するため、専攻の枠を超え議論する。</p>	Alt+Enterで箇条書きに
<p>(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか</p>							
a	<p>◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること 【約300字】</p>	<p>シラバスの執筆については、講義の各回ごとにその内容や目的を明示し、本質的な意味での講義の導きとなるようなシラバス作成を教員たちに要請し、着実にその成果があがっている。また、シラバスはWebでも閲覧が可能である。</p>		<p>シラバスの記載内容に科目・教員により精粗が見られる。</p>	<p>シラバスの記載内容に科目・教員により精粗が見られるため、成績基準評価を明示していない教員等への記述の徹底化を図る。</p>		
b	<p>●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】</p>	<p>教員は具体的なシラバスの記述が求められ、シラバスと授業との整合性も高まっているが、シラバスの到達目標の達成度の調査などは各教員に委ねられている。</p>		<p>大学院の研究指導の形態に見合ったシラバスのあり方についての考え方が明確とは言えない。</p>	<p>大学院の研究指導の形態に見合ったシラバスのあり方について執行部と専攻専修責任者会議を開催し、検討する。各専攻専修の科目についてはそれぞれの専攻専修会議にて検討する。</p>		
c	<p>●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>シラバスは各教員に統一書式での執筆を依頼している。(資料4-3-2)しかしながら、院生からのフィードバックは各教員に委ねられており、研究科としてシラバス検証の機会を設けていないことは課題である。</p>		<p>院生からのフィードバックは各教員に委ねられており、研究科としてシラバス検証の機会を設けていないことは課題である。</p>	<p>院生協議会の代表者との打合せにおいて、院生からのシラバスに対するフィードバックを得る。 また、院生協議会以外にも、その他の検証の方法について研究科として検討する。</p>	<p>資料4-3-2 2013年度「大学院シラバス」の作成について</p>	

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか</p>							
a	<p>◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。 (成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約400字】</p>	<p>【博士前期・修士課程】 履修単位科目の成績評価については、100点満点のうち60点以上を合格としている。また、成績状況を詳細に把握するためにGPA (Grade Point Average) 制度を導入している。 出席を前提として、課題(レジュメ)の提出状況(文献・資料の読み方)や発表能力(プレゼンテーション)などを観察し、研究の心構えや取り組み方などを総合的に判断している。出席点に加えて、学生の参画度、意欲も成績評価に加味している。 修士学位請求論文の評価については、指導教員を主査、副査2名の計3名により、審査を行っている。100点満点のうち70点以上を合格としている。(資料4-1-6) 【博士後期課程】 修士学位請求論文については、審査委員による審査・公開報告会の実施に加え、その受理の可否、内容と審査所見の提示、可否を専攻と研究科委員会の2段階で審査をしている。修士学位請求論文の評価については、指導教員を主査、他副査2名による審査を経た後、研究科委員会において出席委員全員による合否判定の投票を行っている。(資料4-1-7)</p>					<p>資料4-1-6 修士学位取得のためのガイドライン 資料4-1-7 博士学位取得のためのガイドライン</p>
b	<p>◎既修得単位の認定を大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。 【約100字】</p>	<p>海外留学など他大学研究科で修得した既修得単位の認定を行う際は、授業内容・授業時間・単位数等を研究科委員会で確認し、単位認定するなど、適切に行っている。</p>					
<p>(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか</p>							
a	<p>◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】</p>	<p>大学院全体では、大学院長を委員長とする「大学院教育改革推進委員会」を設置し(資料4-3-1)、FDについて取り組んでいる。また研究科としては、専攻専修責任者会議や拡大奨学金委員会等で教育方法や各種制度の改善に向け、適宜協議している。また、年に数回、院生協議会の代表と、教育・研究環境の向上について、授業改善について協議している。 また、学部で実施している授業改善アンケートは、少人数教育の大学院ではそぐわず、実施していないが、毎年度末、修了予定者に対しカリキュラム全体に関するアンケートを実施している。</p>		<p>研究科のFDに対する取り組みが十分ではない。</p>		<p>毎年度末、修了予定者に対し行っているアンケートや院生協議会との懇談会の結果をさらに有効に活用する方法を検討する。</p>	<p>資料4-3-1 2006年度大学院教育改革推進委員会議事録(第1回)</p>
b	<p>●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】</p>	<p>専攻が多岐にわたる文学研究科は、研究科長のもと執行部による責任体制により、専攻ごとに専攻専修会議を定期的開催し、カリキュラムを検討している。教育内容・方法等の改善を図るために、カリキュラム検討委員会、入試制度改善委員会、FD委員会、自己点検・評価委員会などを構築させる必要がある。</p>		<p>研究科長のもと執行部による責任体制により、教育内容・方法等の改善を図るために、カリキュラム検討委員会、入試制度改善委員会、FD委員会、自己点検・評価委員会などを構築させる必要がある。</p>		<p>カリキュラム検討委員会、入試制度改善委員会、FD委員会、自己点検・評価委員会などの構築を検討する。</p>	

第4章 教育内容・方法・成果 (4) 成果

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか</p>							
a	<p>●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】</p>	<p>【博士前期・修士課程】 「学位授与方針」には「具体的到達目標と修得しておくべき学習成果」を示しており、カリキュラム全体を通じて到達目標この学習成果を育成涵養すると同時に研究指導授業のような「論文指導」を通じて、これら学力の達成度を確認している。このような到達目標の下、論文指導において、提出後の口頭試問では、指導教員以外の2名の副査による評定を行い、学力の客観性を担保している。</p> <p>【博士後期課程】 「学位授与方針」には「具体的到達目標」として、以下の項目を掲げている。 ・当該分野での研究の国際的水準に達し、かつ研究者として今後自立して活動でき、そのための知識、語学力、思考力、意志力を備えた資質や能力。 後進の研究者たちや学習意欲に燃える人々と向き合ってみずからの研究成果を伝える資質や指導力。 このような到達目標の下、論文指導において、提出後の公開審査報告会では、指導教員以外の2名の副査（うち1名は学外より選出）による評定を行い、研究成果の客観性を担保している。</p>		<p>博士後期課程において、博士学位の授与件数をいっそう増やす施策が必要である。</p>		<p>論文指導の基準（研究の達成度・進捗状況の確認）を研究科として細かく設定することも一案である。</p>	<p>資料4-4-1 2013年度 大学院便覧「学位授与方針」6.3頁 資料4-4-2 明治大学大学院GUIDE BOOK 2014「学位授与方針」(p.51) 資料4-4-3 明治大学経営学研究科HP「学位授与方針」 http://www.meiji.ac.jp/dai_in/business_administration/policy/graduate_dp.html</p>
b	<p>◎教育目標と学位請求論文内容の整合性 ◎学位授与率、修業年限内卒業率の状況。 ◎卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性。 ◎学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)の試み。 【約800字】</p>	<p>【博士前期課程】 前期課程においては演習等でなされた研究成果を学内外の学会等で積極的に発表させ、そのうち優れたものは文学研究論集等（資料3-9）に投稿させている。また、文研独自に、「学生個々の研究業績を記入する調書」（資料4-4-3）を学生に提出させ、保管している。また、学内GP「複眼的日本古代学教育研究の人材育成プログラム」史学・文学・考古学横断型の特色ある科目として「総合（特別）地域研究」を設け、フィールドワーク科目群は、高麗大学校・慶北大学校プログラムを9月に実施。ともに現地校との学術交流会と史跡等の現地見学を行った。中国プログラムは社会情勢不安から年内実施が危ぶまれたが11月に、また東北日本プログラムは12月に実施した。国際学術会議＜交響する古代＞も第3回を3月に開催し、その研究成果を紀要『日本古代学』等に公表している。（資料4-4-4）また臨床人間学専攻臨床心理学専修では、2012年度の臨床心理士資格試験では、受験者11名全員が合格した。この結果は、同試験の全国平均の合格率（平均約60%）と比べても、高い合格率であり、快挙と言える。 博士前期課程の期限内の学位取得は、日本文学専攻13名、英文学専攻7名、仏文学専攻3名、独文学専攻3名、演劇学専攻7名、文芸メディア専攻3名、史学専攻12名、地理学専攻1名、臨床人間学専攻11名、計60名の学生が修士の学位を取得した。80%を超えおおむね修業年限内に卒業が可能となっている。進路実績としては約50%が就職、15%が進学、45%はその他（帰国等）となっており、本研究科が教育目標として掲げる人材を輩出している。（資料4-4-5）</p> <p>【博士後期課程】 研究成果を学内外の学会等で発表させ、文学研究論集等の学内紀要への投稿は勿論、学外の学術雑誌への投稿を院生には強く促している。また文学部助手を担当している院生らによる「学術研究発表会」を文学部にて開催し、院生の研究成果を学内外からの参加者に公表している。（資料4-4-6）なお「課程博士」の取得は期限内に提出できるよう指導しており、2012年度の課程博士は日本文学専攻2名、史学専攻7名、臨床人間学専攻1名、計10名の学生が課程博士を取得した。</p>		<p>【博士前期・修士課程】 進路実績のデータでは「その他」（即ち「就職」及び「進学」に該当しない）と回答した修了生が45%にのぼる。従って、「その他」と回答する院生への積極的な支援を研究科として行う必要がある。</p> <p>【博士後期課程】 特に博士後期課程の学位取得者において、本研究科の定員（日本文学専攻2名、英文学専攻2名、仏文学専攻2名、独文学専攻2名、演劇学専攻1名、史学専攻6名、地理学専攻2名、臨床人間学専攻2名）に鑑みて、専攻毎にばらつきがあり適切とはいえない。</p> <p>特に、博士後期課程では、課程博士論文提出までには、研究科が定めたいくつかの要件をクリアする必要があり、標準修業年限ではそれらをクリアできずに、博士論文未提出のまま在籍が長期化してしまう場合もある。</p>	<p>【博士前期・修士課程】 就職・進路形成に関するガイダンスを4月のオリエンテーション時に実施し、院生の進路選択に対する意識向上を促している。</p> <p>【博士後期課程】 博士号の取得については、博士論文の質の確保という観点から複数の教員による集団指導体制を基本とする。</p> <p>博士後期課程在籍期間の短縮に向けた研究科としてのキャリア支援施策を、2013年度は実施予定である。</p>	<p>【博士後期課程】 国際化の要請および本学における教員の後継者の育成という重要な2つの課題に応えるために、博士号取得予定者に外国留学の機会付与など与えるための方策を検討する。</p>	<p>資料3-9 文学研究論集38・29号 資料4-4-3 研究業績調書 資料4-4-4 日本古代学5号 資料4-4-5 2012年度文学研究科卒業生進路先一覧 資料4-4-6 2013年度文学部・文学研究科 助手発表会次第</p>
c	<p>●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか 【約400字～600字】</p>	<p>【博士前期課程】 大学院全体の取組みとして、修了予定者に対し、カリキュラム或いは学生支援体制に対する満足度調査を実施し、各種取組みの改善に繋げている。（資料4-4-7）</p>		<p>院生協議会の代表者との意見交換会の機会を持ち、カリキュラム、諸制度の改善に向け、文学研究科固有の課題の早期発見に繋げる必要がある。</p>	<p>院生協議会の代表者との意見交換会の機会設定に向け、検討に入る。</p>	<p>資料4-4-7 授業評価アンケート2012</p>	

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください					Alt+Enterで簡条書きに
(2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか						
a	<p>◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。</p> <p>◎学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。</p> <p>【約200字】</p>	<p>大学院便覧等で修了要件について広く公開(資料4-4-7)し、学位論文審査基準については、HPで学位取得のためのガイドラインを公開し、新入生には0h-o! Meijiで配信することによって、あらかじめ学生に明示している(資料4-4-8、資料4-4-9)。後期課程進学者による、博士前期課程新入生を対象とした修論報告会をオリエンテーション時期に行い、修士論文の作成の目安を提示することで、学生間で研究科全体の修士論文の質を保つことに努めている。</p> <p><続けて、次の記述例に肉付けしてください></p> <p>【博士前期・修士課程】 学位論文に求められる審査基準については、「修士学位取得のためのガイドライン」(資料4-4-8)を定め、「修士論文に求められる要件」で明示している。本研究科の修了に必要な単位は、臨床人間学専攻臨床心理学専修においては38単位以上、臨床社会学専修においては36単位以上、その他専攻においては32単位以上の修得を要件とし、指導教員による研究を受け、修士論文を作成することで学位を授与する。</p> <p>【博士後期課程】 学位論文に求められる審査基準については、「博士学位取得のためのガイドライン」(資料4-4-9)に定め、「博士論文に求められる要件」で明示している。修了に必要な単位は20単位とし、さらに所定の研究指導を受けたものが学位請求論文を提出し、学位審査に合格することで学位を授与する。</p>				資料4-4-1 2013年度大学院シラバス文学研究科 8-13頁, 14-22頁
b	<p>●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。</p> <p>【約600字】</p>	<p>学位授与件数はここ数年にわたり増加しており、2012年度には修士60件、博士10件(課程4件、論文3件)である。修士は修得単位32~38単位、修士論文70点以上で認定され、博士は専攻毎に内規を定めている(例:「レプリカ付論文を含めて学術誌等に3本以上の掲載」等)。</p> <p>修士請求論文については論文提出後に複数の副査を含めた論文審査および面接試問を行っている。博士請求論文は提出後に公開発表会を義務付けており、また、審査に際しては副査に学外者を加えることを慣習としており、これにより透明性・客観性を高めている。</p> <p>修士論文等の評価審査は専攻単位に教員全員にて行われ、研究科委員会にて承認を行っている。また、博士学位の授与方針について専攻毎に定めた内規(資料4-4-2)に従い、研究科委員会及び大学院委員会にて審議・承認を行っている。</p> <p>修士学位請求論文の評価については、指導教員を主査、他の2名を副査として審査を行っている。100点満点の70点以上を合格として、最終的には研究科委員会において判定する。博士学位請求論文の評価については、指導教員を主査、他2名を副査(うち1名以上は学外者)による審査を経て、研究科委員会において可否の判定を行っている。</p>	<p>課程博士の学位授与件数は以下のとおりである。 2012年度10件、 2011年度4件、 2010年度8件、 2009年度10件となっている。</p>			資料4-4-2 各専攻専修の博士論文受理基準

第5章 学生の受け入れ

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか(「AP」の全文記述は不要です)</p>							
<p>求める学生像の明示及び当該課程に入学するに当たり修得しておくべき知識等の内容・水準の明示及び社会への公表</p>							
a	<p>◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。【約400字】</p>	<p>本研究科では「文学研究科アドミッションポリシー」を定め、明治大学「入学試験要項」(資料5-1)及び文学研究科HP(資料5-2)などで公表している。 【博士前期・修士課程】 主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れる。 ○当該専攻・専修で必要とされる思考力、知識、語学力を学士課程ですでに養っていることに加えて、世界・社会の動向と日常性への鋭敏な感性と問題発見能力、自明のものとみなされた諸観念を疑う健全な懐疑力、大胆な仮説形成力、誠実な実証力、専門分野だけにとどまらない精深な教養、高度な言語運用能力を備えた者。 ○将来、日本及び海外諸国で、専門的研究者として、中等高等教育機関の教育者として、あるいは、高度な知識を備えた社会人、教養人として活動する意志と覚悟を有する者。 以上の入学者受入方針に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験、飛び入学試験など、多様な受験生に対応した適切な入学者選抜試験制度が設けられている。 【博士後期課程】 主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れる。 ○当該専攻・専修博士前期課程修了のために必要とされる知識と思考力と語学力を備え、指導教員が必要水準以上と判断した修士号請求論文を提出し論文審査に合格した者、あるいはそれと同等の能力を所有する者。 ○博士学位請求論文提出の意欲を持ち、そのために必要な高度な学習や実習に加えて、海外への長期留学、各種学会での発表、紀要論文等の執筆を着実に遂行することができ、かつ、世界的水準での自立した研究者、教育者として、日本及び海外諸国で貢献できるまでの困難な道程を歩む気概と具体的戦略図を持った者。 以上の入学者受入方針に基づき、一般入学試験、外国人留学生入学試験を実施し、入学者選抜を行なっている。</p>		<p>博士前期・修士課程及び博士後期課程ともに、アドミッションポリシーを定め入学試験要項やHPなどで公表しているものの、学内外(特に学内)の学生に十分には周知されていない。一部の専攻・専修では入学定員を満たしておらず、優秀な志願者の獲得に向けたアドミッションポリシーの周知を適切に行う必要がある。</p>		<p>例えば、文学部の新入生ガイダンスにおいて、大学院への進学を促すため、アドミッションポリシーを含めた文学研究科の概要を説明する機会を設ける。</p>	<p>資料5-1 文学研究科2013年度大学院学生募集要項 3頁 資料5-2 文学研究科HP http://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_ap.html</p>
<p>障がいのある学生の受け入れ方針と対応</p>							
b	<p>●該当する事項があれば説明する【約200字】</p>	<p>障がいのある学生に入学機会を与える事につき、本研究科は特に出願の際に当該学生より特別の手配の要望があった場合には、それに積極的に対応する旨、入試要項に記載してある。ただし、より重要なのは、受け入れ後の体制が入学者の希望ないしは予測に合理的な範囲で用意できていることであると考える。本研究科は、障がいをもった学生の受け入れ方針を特に対外的に掲げてはいないが、対外的にもうけられた進学相談の機会の折にこの点に関する質問を積極的に受け入れられるように用意している。</p>					

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください					Alt+Enterで簡条書きに
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学選抜を行っているか						
a	●学生の受け入れ方針と学生募集、入学選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に学生募集及び入学選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか)【約400字】	入試の運営に関しては、各専攻・専修の試験責任者チームを本研究科委員会が執行部を中心として管理することとなっている。その他細部の採点方法などについては受験者匿名の上での採点など、公正性を担保するための慣例に基づいて行っている。 前期課程に関しては、従来9月中旬、2月中旬に学内外から募集していたのに加え、2010年度入試より学内選考を一部行い、面接試問の結果で合格者を決定している。後期課程については、2月中旬に修士論文評価、筆記試験と面接試問に鑑みて合格者を選抜している。				
(3) 適切な定員を設定し、入学を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか						
収容定員に対する在籍学生数比率の適切性						
a	◎部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である。(修士・博士・専門職学位課程)【約200字】	【博士前期・修士課程】 2012年度末では収容定員160名に対し在籍者数146名(在籍学生比率は0.91)であり、定員とほぼ同数、2010年度より変わらぬ実態となっている。また、入学定員80名に対する入学超過率過去5年間の平均は0.74である。(資料5-1●表5-1) 【博士後期課程】 収容定員63名に対し、在籍学生数は108名で在籍学生比率は1.71であり、過去からの改善が図られず、いまだ適切ではない。また、入学定員21名に対する入学超過率過去5年間の平均は、0.74である。(資料5-1●表5-1)		博士後期課程の在籍学生比率を是正するため、博士後期課程の早期修了に向けた研究科としての様々な支援が求められる。	博士後期課程在籍学生に特化し、大学等の研究職を志望する院生に対する就職キャリア支援事業をさらに充実させる。	資料5-1●表5-1「年度別入学定員と入学定員超過率」
収容定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応						
b	◎現状と対応状況【約200字】	【博士前期・修士課程】 2012年度末の収容定員に対する在籍学生比率は0.91であるが、2012年度及び2013年度の入学定員に対する入学超過率は0.7を下回っている。そのため、入学者数増加と留籍者の早期修了を促す取組みを行うべく、学部生及び修了生の就職キャリア支援行事の参加を促している。 【博士後期課程】 在籍学生比率は1.7を超えており、適切な数値ではない。留籍者数の解消にあたっては、すみやかな学位取得こそが、問題解決の方法であるとの認識から、学生支援行事(競争的資金の獲得に関するガイダンス、就職支援カウンセリング等)について、現在企画検討を行っている。		博士前期・修士課程では、2012年度及び2013年度の入学定員に対する入学超過率は0.7を下回っている。特に日本文学専攻、史学専攻日本史学専修、臨床人間学専攻臨床心理学専修では受け入れ学生数が集中している。	入学定員数充足のため、研究科独自の進学相談会を開催し、専攻専修毎に個別ブースを設け、進学相談をきめ細やかに実施している。また、在籍院生の早期修了を促すための就職キャリア支援行事を複数回企画する。	
(4) 学生募集及び入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか						
a	●学生の受け入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。【400字】	入学の受け入れ方針(アドミッションポリシー)ならびに入試要項は、研究科委員会において、2012年度であれば入試募集要項を公開前の6月度の研究科委員会にて、審議・承認を行っている。(資料4-1-4)				資料4-1-4 2012年度第3回文学研究科委員会議事録

第6章 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	G列の点検・評価項目について、必ず記述してください				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	Alt+Enterで簡条書きに
(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか							
a	●修学支援、進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	進路支援については方針こそ明確文化してはいないが、毎年、同支援の実施計画を執行部が作成し、研究科委員会において報告/共有を行なっている(資料No. 6-1)。					資料6-1 2012年度第2回文学研究科委員会議事録
b	●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	海外の協定校からの交換留学生に対しては修学・生活支援の意味合いもあって、チューター制度(資料6-3)を導入している。 過去三年間の実績・データ(表6-1)に見られるとおり、退学者数は毎年平均して20名を超える。退学理由の内訳は、一身上の都合というまさに個人のプライバシーに関わるものが半数を占め、少数の経済的理由を除くと、残りは大部分が満期退学となっている。ただ、一身上の理由で退学を申し出る院生は、様々な事情が有り得るので、先ず事務室にて退学に至る理由をヒアリングし、事務室から指導教員に連絡したり、場合に依っては学生相談室への訪問を促している。					資料6-3 外国人留学生特別指導実施要項
(2) 学生の進路支援は適切に行われているか							
a	◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	キャリア支援活動については、「文学研究科・就職キャリア支援講演会」を毎年実施。2012年度は9名の学生が参加した(資料No. 6-2)。参加学生へはアンケートを実施し(資料6-4)、概ね好評を得ることができ、学生のキャリア形成に対する意識がさらに高まった。	参加者数が2012年度は少なかつたため、次年度の実施時期及び内容の見直しが必要である。		2013年度では、先ず4月の新入生オリエンテーションにおいて第1回目の就職キャリア支援講演会を実施し、新入生全員にキャリア形成に向けた意識向上を促した。また、学生が進路選択への検討を本格的に行う11月において、第2回目の就職キャリア支援講演会を企画している。		資料6-2 2012年度第4回文学研究科委員会議事録 資料6-4 2012年度文学研究科就職キャリア支援講演会アンケート

第10章 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか							
a ◎自己点検・評価を定期的 に実施し、公表していること 【約400 字】	毎年、自己点検・評価全学委員会による基本方針に従い、自己点検・評価を行っている。またそれらの点検・評価活動の後、「学長方針」に基づき「年度計画」を作成している。2012年度は専攻専修責任者会議を踏まえ、「2011年度自己点検・評価報告書」を作成した。同報告書は、その後全学の手続きを経て、ホームページで公開している。(資料10-1) (委員会等の名称 主なメンバー、人数 開催日等) (1) 文学研究科自己点検・評価委員会 研究科長、大学院委員、各専攻・専修責任者(全16名) 2012年 6月開催 (2) 専攻・専修責任者会議 研究科長、大学院委員、各専攻・専修責任者(全16名) 研究科委員会開催の前後に適宜開催している (3) 執行部会議 研究科長、大学院委員、担当事務 随時開催 (4) 学生懇談会 大学院執行部と各研究科院生協議会委員長 2012年 10月15日		報告書の形式と内容がまだ十分に浸透していないので、多くの構成員に記述方法を理解されていない。		自己点検・評価活動との連動を一層図るため、専攻主任・専修責任者にも、さらに積極的に報告書の作成参加を要請する。	「年度計画書」と「自己点検・評価」のプロセスの一層の連動を図る。	資料10-1 文学研究科ホームページ「学部等自己点検・評価報告書」(http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/jikotenken2011/6t5h7p00000eu2mx-att/3_9.pdf)
(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか							
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字~1000字程度】	文学研究科では自己点検、外部評価は行っているが、これまでのところ、内部質保証に特化した制度は存在していないので、その構築を検討中である。 自己点検・評価報告書の作成にあたり、特に「発展計画」は、前年度の「年度計画書」を参考にしている。また自己点検・評価報告書の作成後に、「学長方針」に基づく「年度計画書」を作成している。「学長方針」には、前回の自己点検・評価報告書についての全学委員会のコメントや評価委員会の評価が反映されており、PDCAサイクルが整備されている。 研究科内の課題については専攻専修責任者会議、奨学金制度については拡大奨学金委員会が設置されており、現状をより具体的に把握し、有効な改善策を策定すべく、活動している。 前回認証評価時の助言・指摘事項や自己点検・評価 評価委員からの指摘事項については、2011年度より第2期「改善アクションプラン」(資料10-2)にて国際化の推進を進めており、改善指標を定めて進捗管理を行っている。		文学研究科では自己点検、外部評価は行っているが、これまでのところ、内部質保証に特化した制度は存在していない。 専攻・専修者責任者会議を内部質保証に係る組織として運用し、また学外者の意見を取り入れる体制が必要となる。		内部質保証に特化した制度の構築を執行部で検討中である。		資料10-2 第2期「改善アクションプラン(3ヵ年計画)」